

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

				No.	13-006		
PDCA	事務事業名	地球温暖化対策事業	部課等名	市民経済部 環境課	担当 内線等	青木 331	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第2節 環境との共生					
		基本施策： 1. 地球・地域環境の保全					
		単位施策： (1) 地球環境保全					
		個別施策： ①地球温暖化対策					
根拠法令等	地球温暖化対策推進法、半田市環境保全条例、半田市環境基本計画等						
対象・目的	全市の地球温暖化対策を推進するため、市の事務事業での環境配慮を率先して実施する。また、「エコファミリー登録制度」「エコ事業所登録制度」を継続して実施し、地球温暖化防止意識の向上を図る。						
目的を達成するための手段・活動内容	市の率先行動としては、「はんだエコアクション2019」に基づき、エネルギー使用量の削減に取り組む。 エコファミリーやエコ事業所には、情報発信をし、家庭や事業所でのエネルギー使用量の削減を図る。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位
		緑のカーテン育て方講座受講世帯数		25	20	15	世帯
		事業費		80	72	323	千円
		人件費		3,173	3,435	2,484	千円
		総事業費		3,253	3,507	2,807	千円
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位
	市民1人あたりに係る地球温暖化対策コスト		28	30	24	円	
	成 果	成果指標		29年度	30年度	元年度	単位
		半田市役所の電力使用削減量 (前年度比)	実績値	—	▲6	1	%
			目標値	—	1	1	
			実績値				
			目標値				
			実績値				
目標値							
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		低い	⑤成果向上の余地	ある		
	事業の評価・課題	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	—
		D					
		令和2年3月議会において、市長が「2050年CO2排出量実質ゼロ」の表明を行った。 「はんだエコアクション2019」においては、目標数値を定めて取り組んだものの、CO2排出量については目標に達することなく最終年度を迎えた。 手軽に家庭で取り組みやすい地球温暖化対策としての「緑のカーテン」については、半田農業高校の協力で「緑のカーテン育て方講座」の内容の充実（事前質問を募集し講座に反映させる等）が図られ、新たに取組世帯を増やすことが出来た。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進					
		温室効果ガスの排出量削減に向けて、家庭や事業者向けの補助金制度の創設を検討していく。また、「はんだエコアクション2019」の後続計画として「半田市公共施設CO2排出削減対策実行計画」を策定し、その推進を図り、市が一事業者としての率先した行動により、地球温暖化防止に向けて取組みを行う。					
	令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		温室効果ガス排出量（CO2換算） （半田病院・ごみ処理施設除く）			8864	t-CO2	
		「緑のカーテン育て方講座」受講者の「緑のカーテン」設置数			135	世帯	